

ノ困難ニ際シ其所理頗ル不正實ニ（言語カ）語言同断

ノ人物ト云フヘシ

九月廿二日

九月廿三日

九月廿四日出勤午後松隣兄ト地圖別荘ヲ訪フ

九月廿五日出勤

九月廿六日出勤昨日五代友孿病死ノ報知アリ

為見舞岩瀬公園ノ宅ヲ訪フ五代ハ同家ニテ

（養也）

療用中死去又明廿七日ヲ以テ海路ヨリ大阪

ニ遺骸ヲ送ルト云フ五代氏ハ鹿見島産ニス

于維新前ヨリ外國ノ事情ヲ早ク知り同藩中
 ニテ衆ニ先キ立ケ用國ヲ唱ヒタル人ナリ才
 アリテ智識ニ乏シ又學識ナシ唯ニ已レカ才
 カヲ以テ世間ヲ籠絡^{ロツラフ}セシコト量レトモ智力
 足ラサレハ其志ヲ達スル能ハス已レニ適セ
 サル者ヲ悪ムコト讐敵ノ如シ故ニ知人ハ敬
 シテ遠クルノミ嗜奢^(奢嗜)ヲ好ミ人ノ下流ニ立テ
 欲セズ繁務ヲ執ルニ單ニ巨利攫取セシコト
 ヲ量ルカ為メ一生利益ヲ得タルコトヲ南カ
 ス今々死後ノ家計單ニ借財ヲ遺族ニ残スノ

ミナラン然レトモ尚数十年ノ生ヲ保タハ大

ニ悔(悟カ)誤シ一紳商ノ英名ヲ後世ニ残スニ至ラ

ンカ惜哉天此才子ニ年ヲカサバルヲ

九月廿七日日曜橋本勝先生ヲ訪フ

九月廿八日出勤夜神鞭津田仙松倉来ル

九月廿九日出勤無記事

九月三十日出勤

(欄外書込) 九月十一日九月二十一日九月二十六日ノ上ニテ十

八年ト及九月十三日上ニテ十八レト記ス)

十月一日出勤

十月二日出勤真男昨夜ヨリ風邪氣ナリ午後八

時温度三十九度七分也朝暎湯ヲ与ヘカツン

クヤウヲ施ス十二時温度七十三度又午前六

時ニ至リ三十八度難波一之軒祭ヲ乞フ○津

田仙米入ウルヘツキヨリ金十圓力リ返濟期

切迫ノ由ニ竹海舟先生ヨ金六百円ヲ借り入

レ遣シ尤右金員ハ直ニ *instruments* ヲ以テラウル

ヘツキニ渡スル

十月三日出勤真男風キ温度三十八度四五分ノ



間 = 在リ 杉田老人ト 難波 診察ス ○午後 松隣

兄ト 同道 回リ 右 淀橋 4⁰ 原 幸右エ門 宅ヲ 訪ヒ

蔵幅 等ヲ 見ル 晩食ノ 馳走ヲ 得帰ル

編述 銀行 小言 印行 成ル 昨日 納本 齋

十月 四日 眞男 熱度 追々 増加ス 夜九時 頃ヨリ 三

十九度 已上トシ 難波 来リ 一泊ス 十時 頃引付

アリテ 一時 大ニ 苦慮ス 未明 橋本ヲ 招ク

十月 五日 朝七時 橋本 来リ 診察ス 微温湯ヲ 以テ

熱度ヲ 駆除ス 夕六時ニ 至リ 熱度 三十七度ニ

下ル

十月六日真男午富昨日ト同シ橋本難波杉田等

訖祭ス

十月七日真男追々快方ニ赴ク橋本来ル難波杉

田同断

十月八日真男若体日一日より快キ橋本難波来

ル

十月九日真男快方午波、行徳、市河三兼北岡

文兵衛三野村利助松隣兄ヲ星岡茶寮ニ招キ

晚餐ス松隣兄の厚メナリ

十月十日真男益々快方

十月十六日十日已來記事ナシ昨日ヨリ大雨曉

來北風大雨已ニ道路人跡ヲ断ツ押而出勤ス

正午十二時ヨリ快晴○夕市河三兼宅ニ被招

茶ノ馳走ナリ尤松隣兄同道夜十時頃帰ル

十月十七日新嘗祭休日○伊達寧祐地京ヨリ帰

リ來ル榎本武揚ト同行ナリト言フ少年輕躁

ノ舉動真ニ可驚樋口忠一ヨリ書翰來ル地京

ニ轉学ヲ欲スト之亦少年ノ舉動ナリ助勢ヲ

以テ漸ク上海ニ遊ヒ來夕一年ヲ不出地京ヲ

望ムトハ又輕々ノ思考ト謂ハサルヘカラス

十月廿五日	十月廿四日	り	十月廿三日	十月廿二日	十月廿二日	十月廿一日	十月廿日	十月十九日	十月十八日
日曜			出勤	出勤					
			北岡 = 被招勝先生松隣兄等十						

十月廿六日出勤鈴木ト西園寺ヲ訪フ

十月廿七日出勤

十月廿八日松隣兄帰縣ス午後三時上野發車ス

十月廿九日出勤無記事

十月三十日出勤朝大蔵御ヲ訪ヒ兌換券發行主

旨ヲ述ブ〇伊達寧祐帰京セス一件ヲ星野有

信ニ通書ス

十月三十一日出勤無記事

(欄外書込) 十月三日十月九日十月廿二日ノ上ニ 十八年ト

又十月三日ノ上ニ 号花溪又夕田ト記ス

十一月一日日曜朝橋本ヲ訪フ金澤勝先生ヲ尋
 同所ニテ晝食ス西郷氏之書ヲ得タリ金八圓
 也午後寺島ヲ白金ノ邸ニ訪フ銀行小言一部
 持参ス不在故不逢仙臺岩濑兄ニ送書ス昨夜
 安着之電報ヲ得タル返書ナリ

十一月二日出勤北風冷キ出勤大槻修ニ来ル内
 閣書記官局ヨリノ送金貳拾五圓相渡ス〇同
 人伊加保^香邊遊歴ノ由ニテ高野長英書翰ヲ得
 テ帰ル直ニ余ヲ贈ル右書翰ハ上州澤渡温泉
 場福田宗禎之所持ノモノナリ福田ハ同所ニ

七代医ヲ業トス當時ノ宗禎ト高野交友ニメ

高野江戸ニ在リ火災ニ罹リタルコトアリ當

時材木ヲ福田ニ依リ買入レタルモト見ユ

十一月三日天長節昨夜ヨリ冷雨午時晴ル秋晴

十レハ野外逍遙ヲ神鞭ト約セシニ雨ニテ不

果〇山東氏来ル次ヲ神鞭来ル圍(甚多)ニ夜ニ入

ル〇外勢卿ヨリ夜會ノ招キ十レトモ風邪故

不往

十一月四日出勤無記事

十一月五日昨日北風大雨今朝ヨリ南風烈シ雨

十一 十日 出勤無記事

十一月六日 秋晴出勤○松隣無事帰縣ノ由來書

黒川剛ヨリ來書 鮭來ル○綱村公御書并ニ御

名の茶入白浪之極ノ古筆了悦持参ス西行法

師のサ、塔婆も真筆の極ノ成ル右ハ三田信

ヨリ被贈モノナリ

十一月七日出勤○朝相馬來話妻木出身之相談

ス○夕村田一郎來ル○米國々々一々より來

書ニ曰ク先達中ホトユ一氏ヲ以正金銀行

支店ニ備使ノ事申入レタルニ粗内約調ヒ夕

ル竹高橋領事故障ヲ入レ解約ナリタリト云

フ苦情タラタラ也尤千萬ノ事ト思ハル小吏

共公益ヲ顧ミサルハ我國ノ曰弊カ歎息歎息

十一月八日日曜午前來客教名午後森氏ヲ訪ヒ

柳氏女ノ事ヲ申入ル〇勝先生ヲ訪ヒ夜ニ入

リ帰ル〇登米ノ星野有信ヨリ返書來ル

十一月九日出勤

十一月十日出勤大條姉様ヨリ禮來ル季治出身

ノ請求也〇芳賀雄輔來ル廣瀬川架橋結算ニ

竹松平縣令ニ出會ノ辱メナリト云フ〇芝幼

稚園ノ公債貳百圓（額面）ヲ九十七圓五十
 弁ニテ買入ル

十一月十一日出勤○朝吉井宮内少輔ヲ訪ヒ勝
 小庵病身ノ現状ヨリ宮内省江轉任ノ義ヒソ
 カニ畫按ヲ述ヘ少輔ノ意見ヲ尋マイラセタ
 リ同意ナレトモ尚熟考ノ上返答スヘシトテ
 別レタリ○高七ヨリ鯨肉○金須松三郎ヨリ
 栗一袋黒川ヨリ新鮭ニ尾贈リ来リタリ○夜
 星松三郎来ル同氏ハ薄才子ニシテ浅智ナリ
 而（可）ノ自家ノ商業ヲ廢シ當時流行ノ愛國者有

ト云フ風体ヲ学ントの動作アリ真物ニハア
ラサル可シ年ヲ出ス家産空亡ニ属スルナラ
ン

十一月十二日出勤渡邊洪基ヲ訪ヒ妻木仕官ノ
事ヲ内談ス○醬油會社茂木某色川誠一等十
リ川長ニ飲ス夜九時過歸ル

十一月十三日出勤○朝大藏卿ヲ訪フ○朝比奈
妻木江渡邊意見ヲ傳ヒ而^テメ月給八十圓ニテ

仕官の事ニ決定右之趣渡邊江申遣ス

十一月十四日出勤○桶渡忠一留学費金貳拾圓

ヲ佐藤素拙江渡ス合計四拾圓出金ス(全)馬

字會十圓出金合計八十圓也○龜卦川老人病

死ノ報知ニ付出(五九)より名札ヲ置ク○朝伊達祐

寧并星野有信來ル北京再遊ノ事ニ決スタル

ト云フ

十一月十五日日曜秋晴○勝先生ヲ訪フ先生ヨ

リ兼テ吉井宮内大輔ニ内話シ徳川累代墓所

ニ特旨ヲ以祭詞料御下付ノ義伊藤宮内御ノ

不同意アリテ事行ハ(脱カ)サレコトヲ懇談セラル

十一月十六日出勤○朝鈴大ニ立より高橋是清

歐行ニ付送別會ノ企ヲ相談ス鈴大引更ケ周
 旋ノ筈ナリ談餘巷説内閣改革ノ事ニ及フ参
 議中專任ト兼任トヲ造リ專任ハ專ラ大臣ノ
 左右ヲ薄志ステ情實論ヲ矯正スルノ策ナル
 カ如シ之レ政府直正ノ意見ヲ貫徹セント欲
 スルノ手段ナランヤレトモ熟ラ按ツルニ矢
 張姑息手段ニ外ナラズ自ラ進ンテ統括スル
 人アラサル已上ハ決テ好結果ヲ奏ス可カラ
 ス有厚ノ人ニ乏シ如何トモ厚ス可カラズ世
 ノ降ルヤ人才益々隠レテ顯ハレズ只滿朝薄

々ノ小人尊大ヲ持重スル者増加スルノミ鳴
呼○遠藤温ヲ訪不逢

十一月十七日出勤○松隣兄江返書出ス

十一月十八日出勤○上海桶口へ北京行難相成

飯中遣し^ス○海舟ノ像油画出来ル川村清雄ノ

筆也○今朝伊達祐寧北京留学志願之義ニ付

榎本武揚私宅ヲ訪朝履中ニテ出會難致旨ヲ

以テ空敷帰ル主人ノ顯職ナルヲ以テ取次ノ

僕自尊豪慢ヲ極ム間々顯職中ノ僕等ニ見ル

所ナリ之レ雇僕ノ悪キニアラス主人自ヲ豪

慢尊大ナルカ厚ノ其風習ヲ学ブ所ナリ要路

ノ人ハ勿論深ク可謹示ナラシ余之レヲ試ミ

ル此醜氣ノ在リル邸宅ハ河村吉田清榎本佐々

木

十一月十九日出勤夕五時ヨリ村田一郎ノ招キ

ニテ久保町賣茶樓ニ飲ス高木貞作帰京ノ厚

メナリ

十一月廿日出勤〇帰途松倉ヲ訪フ小野清宮城

縣出役之義ヲ批シ松平出京中ナレハナリ

十一月廿一日出勤〇高橋是清政州行ニ付厚送

別精養軒ニ會ス同志者鈴木大亮佐和正田邊
 實明木村信郷鈴木知雄松浦玉圃ト余ナリ高
 橋ニ枕末松謙澄ニ一書ヲ送ル○橋本江謝議
 トシテ金貳拾圓ト友物一反送ルお纏持参ス
 十一月廿二日日曜高橋是清明日出立ニ付同人
 宅ヲ見舞フ帰途久保田貫一ヲ訪ヒ又瀧尾新
 ヲ訪ヒ晝食帰ル夕刺海舟先生ヲ謁シ晩食ス
 ○橋本綱常七兄ノ祭典ニ付紅葉館ニ被招お
 継真男行ク供物料五圓持参仙臺十文字女子
 誕生ノ報知来ル

十一月廿三日新嘗祭休日地風冷雨終日寒し高

七頃日来荒川某官金私用ノ連累にて拘留也

ら此其後保釋トナリ帰宿中ノ所其借用年金

五十月ノ手段相付タルニ尚不足五十月ノ手

配ヲ大槻文彦ヲ以申来ル石谷ニ私金ハナシ

又當職奉命中ハ保証人ニモ難相立云々申遣

レ^ス夜ニ入り本人直ニ来リ右ノ請求ナリ前同

様相答フ又尔後ノ動作ハ極テ謹慎金策等モ

聖モ無理ナラヌ^レシ^レ在^レ意必要ノ旨忠告ス○

高橋是清今日歐米ニ出立ス新橋ニテ送別ス

十一月廿四日出勤朝榎本武揚ヲ訪ヒ伊達祐寧

歸京ニ付再度清國行ノ義ヲ托セシテトセ

言フ左右ニ批シ不更合是レ榎本ノ真面目ニ

ノ只時ト勢トニ乘シ世ヲ渡ルニ功ナルノミ

輕薄才子嗚呼可惜ハ箱館ニ死サルヲ人死地

ヲ誤ルトハ此人ノ謂フカ夜ニ入り星野有信

来ル前述ノ通申談ジ清行相止ノ洋学ノ事ニ

決ス

十一月廿五日出勤黒川江返書出し

十一月廿六日出勤

十一月廿八日出勤朝吉田次郎来ル伊達祐寧ノ

周旋出来ル旨也

十一月廿九日昨日午後幼稚園ニ集會ス議決ハ

娼母ノ給料増加ノ事年末賞与金ノエト等十

リ曰曜坂本町ニ新築ニ銀行集會所落成由場

式ナリ只銀行間ニ交換スヘキ手形ノ流通モ

十キ内正巳ニ三万圓内外ノ出費ヲ以テ此新

築ヲ厚スノミナラズ由場式ナリトテ顯官ヲ

招待シ角力等ノ盛舉ヲ數キ又費用ヲ高ムル

ハ銀行者ノ思儀モ亦平々凡々只可歎ノミ我



國事業ノ擴張ヲ計ルモ得ヘカラサルモノ都
 テ虚飾ヲ以テ世ヲ瞞着セシトスル奸商ノ横
 行スル所以ナリ余被招祝詞ヲ携フ左ニ濁世
 ノ交際不及止所可思ス
 富田鐵之助謹テ曰ス東京ハ吾邦ノ首府ニ
 シテ政令ノ出ル所又商業ノ首府ニシテ貨
 物ノ聚ル所ナリ故ニ社會ノ利用モ亦人事
 ノ夥多ナル三府五港ニ冠タリ然リ而シテ
 理財上必要ナル交換所ノ建設ナキハ一大
 缺典トス今ヤ各銀行諸君ノ精力ヲ以テ集

會所ヲ設ケラレ交換ノ事業ヲ開カントス
 是ニ於テ銀行ノ業務始テ完備スト謂フベ
 シ建築既ニ竣功ヲ告ケ百般整頓シ本日ヲ
 以テ開場ノ式ヲ執行セラル爾來同盟銀行
 ト聯絡ヲ通シ金融ノ疏通ヲ計ラハ社會ノ
 便益ヲ増進スルヤ疑フ可ラス余日本銀行
 ノ名ヲ以テ此ノ盛典ニ陪列スルノ榮ヲ辱
 フシ聊カ茲ニ祝辭ヲ呈ス

十一月三十日出勤無記事

池田（岡山）家家政改正之義ヲ松方伯之依

托 = ヨリ周旋調理昨年ヨリ漸ク近日 = 至リ

終結ノ所岡山旧藩士有志總代ノ名ヲ以テ謝

状到ル今日右返書出シタリ其人名

草賀廣男 山中登

村上長毅 中川横太郎

稻川長典 水野元靖

池田博愛 / 七名ナリ

(欄外書込) 十一月一日十一月六日十一月十日十一月十三日

一月十九日十一月廿三日十一月廿六日十一月廿九日十一月三

十日上ニ「十八年」及十一月二日上ニ「〇」ト記入

十二月一日出勤午後安田善次郎ヨリ茶會被招

三野村子安三田ト共ニ集會ス

十二月二日出勤午後山内芳秋ヲ星岡ニ招ク同

十二月三日出京来ル三日帰阪スト云フ

十二月三日出勤お縫真男新富座ニ赴ク○木村

信郷来ル小野清就職ノ内談ナリ

十二月四日出勤

十二月五日出勤商法講習所ヲ訪フ

十二月六日日曜煤拂勝先生森ヲ訪フ夕刺地岡

文兵衛来ル

十二月七日出勤

十二月八日出勤朝松方御立ヨル

十二月九日出勤上海太田昇平ヨリ來書樋口忠

一北京行指留の返書來ル

十二月十日出勤朝前田正名來ル

十二月十一日出勤

十二月十二日出勤

十二月十三日曜海舟先生ニ謁ス午後寺島伯

ヲ訪ヒ晝事ヲ談ジ夜ニ入リ歸ル

十二月十四日朝松方伯ヲ訪ヒ東北銀行ニ對シ

治安裁判所ニ訴ヒタル一条ヲ申述ブ〇夜新

島襄外國ヨリ帰リ来リ明日西京ニ帰ル由ニ

テ来話ス仙臺ニ一学校ヲ建ンコトヲ企テ右

ヲ相談セラル

十二月十五日出勤

十二月十六日出勤朝大蔵卿ヲ訪ヒ東北銀行ニ

係リ状況ヲ演フ又山田司法卿ヲ訪ヒ同行ニ

係ル訴事ニ付意見申入ル

十二月十七日出勤

十二月十八日出勤

十二月十九日出勤吉原今日香港出立

十二月廿日日曜昨夜雪寸餘朝晴ル○吉井江惜

ミ又宮島精一郎ヲ訪ヒ所蔵白石自筆ノ寶貨
(空白)

ヲ一見ス珍書ナリ後日必ラス騰寫ヲ望

ムナリ○森有禮ヲ訪フ不在三井ノ預リ金通

帳ヲ渡ス○橋本ヲ訪フ三野村ト協同寄附金

千圓相渡ス○海舟先生ニ謁シ日暮歸ル○白

石先生著古史通四卷ヲ求ム代七十五錢

十二月廿一日出勤

十二月廿二日出勤大政官被廢大政大臣三条公

任内大臣内閣總理大臣伊藤伯其他諸有御悉

ノ大臣トナル子細ハ別冊ニ記ス

十二月廿三日出勤夜神鞭来ル

十二月廿四日出勤夜目賀田来ル

十二月廿五日出勤吉原着ノ日取りニ付午後ヨ

リ横濱ニ出張ス西村ニ休ム夜十二時着船ノ

報アリ船中ニ出迎フ直ニ出陸ス

十二月廿六日朝ニ番汽車ニテ吉原ト帰京ス出

勤

十二月廿七日日曜造士義會小集

十二月廿八日出勤

十二月廿九日出勤

十二月三十日出勤官報ニ在位ノ者年賀参内ノ

事アリ是レ迄無届ニ致置キタレトモ何力ナ

分ナラヌヨ也依テ左ニ

郵便ニテ出ス

私義所勞ニ付来一月年賀参内仕兼候間

此段御届仕候也

十八年十二月三十日

麻^{（布腰カ）}市兵衛町三丁目八十八番地
從五位富田鐵之助

宮内省御中

十二月三十一日出勤夕刻此間来ル寛話夜ニ入
 リ帰ル本月下旬ヨリ政府ノ改革役人ノ免官
 非職トナルモノ尚末夕收マラサルカ如シ人
 心恟々満域ノ風波除夜新迎例歳ト異ナルナ
 リ

(欄外書込) 十二月廿一日上ニ「十八年」ト及ヒ十二月廿二日

上ニ「〇」ト記ス)

鐵軒日記

第二十三

中之人名

松方正義卿

吉原重俊輔

加藤權大書記官

林子平

堀越角次郎

村田一郎

濱田景長

清水篤子

神鞭知章

目賀田種太郎

妻木賴黃

神山德平

大槻修三

深澤勝幸

中村道太

新正金頭取

小野光景

三好天山

小野寺常治

三好監物

川崎八郎工門

村上清兵衛

村上龜武

岡澤宗十郎

芳賀清右工門

大谷純靖

川村海軍卿

鈴木金武

三條松隣

山内雄也

中村元雄

山縣慎太郎

長谷川鳥藏

今村旅館(ヨコハマ)

片山旅館(分田)三郎

安藤沼五王脱右門

石内弥平太

片倉三右衛門

朝次英二海舟

水嶋義

相馬永胤

峯村鈴木知雄妻五郎

長谷川半治

安田善次郎

三野村利助

立田文革

高崎正風

高橋真治

白州退藏

朝比奈尔

竹村武助

寺嶋全權公使

吉田外務大輔

吉田次郎三郎

大槻修二

郷 純造

外山 修二

原 良善三郎

三條 公恭

山内 陸州

花房 瑞連

山縣 有明有明義

松本 莊一郎

草間

原 亮三郎

色川 誠一

色田 平兵衛

徳川 三位公

勝安房海舟

土子

鈴木 大亮

佐和 正

横尾 東作

田邊 實明

大槻 直信

大槻 文彦

松浦 玉甫

高橋 七三郎

石森

熱海 貞尔

田邊 松兵衛

北岡 文兵衛

橋本 綱常

金澤 良齋

杉田

福澤 澤田 今泉 おとふ

小鹿 乙骨 外山 修造

福井 信 岡崎 賢守 長沼 織之允

徳田 伊達 讓堂 公 山田 樂 河波八元

蜂須賀 儀成 大條 季治 小淵 虎四郎

松平 正直 大原 渡邊 幸兵衛

竹内 壽貞 伊達 從五位公 東基 岩倉 具視

井上 外務卿 梨香 涌谷 鈴木 保吉

菅 春風 早矢 仕有 的 安西 徳兵衛

村田 文造 藏下書 菊池 幸一 伊達 今平 從二位 公

山本 鴻一

大西 松園

伊達 宗城

森村 市左工門

成嶋 柳北

波澤 栄一

野村 守成

佐藤 素拙

伊達 樂山公

廣澤 安任

飯田 葵

子安 峻

岡内 千代鹿門

立花 良次

小野 清

竹内 千之助

竹内 雄平

羽倉

林 大學頭

小 子

森 行

森 有禮

小 西新右工門

但木 七峰

佐久 間健治

三 浦乾也

佐伯 惟馨

伊達 賢孝

摺澤 静夫

傳田 仙

(支カ)

与倉守人

ホイ卜子

安藤就高

富田協平

原賀六郎

北岡文平

並木時習

長家半人
秀之進

水野元靖

佐々木本支

松谷謹太郎

新井常之進

権平支
竹内有定

千ヤ一十

千一十

毛利重勝

宮城県書記官
和達

宮城県一筆属
早川

千葉県一筆属
高力衛川

三田八信

遠藤庸吉

富田實保

富田小五郎

伊達宗亮

佐々木長造

坂原信近

南保

松倉恂

柴田隆

大町因幡

錦
戸右門

西印

和
田鏡三

吉
村

須
賀川

吉
田省一

岩
瀧

大
久保利和

今
泉お心子

室
田高七

西
園菊次郎

伊
達菊公子

伊
達基寧

湯
目隆治郎

松
尾臣善

高
木三郎

八
卷道成

高
橋是清

中
尾義三郎

磯
邊八郎治

お常文
峯村宗助

鈴
木知雄

山
田扶一

川
嶋正訓

兼
崎彦五郎

金
原信近

小
野寺大三郎

大
野清敬

増
田繁幸

凍
水賢曹

遠藤 敬止

瀨 成田

南 藤虎吉

佐久間 健兒

分

伊達 基祐

宮本 小一

山田 海三

日下 義雄

中嶋 正雄

室田 義文

西園 寺公望

奥平

岩崎

渡邊 秋昇

金秋

大山 陸軍卿

橋本 内志

細谷 直英

税所 定篤

鈴木 良三
旅館熱海

渡邊 洪基

吉井 友實

伊達 宗徳公
字嘉島

長右川 瑞清

矢田 部良吉

山岡 次郎

寺嶋 宗則

西村 虎四郎

剣持 信卿

後藤 孫兵衛

古山 如才

伊藤 宮内卿 博文

近藤 汝子

植 彦 正太郎

河 村

土 方

五 代 友 厚

牧 野 伸 顯

藤 島 正 健

リ
フ
ン
コ
ウ

金 子 弥 平

佐 藤

西 郷

箕 作 秋 坪

旅館伊香保
木 暮 八 郎

大 野 直 輔

呂 川 農高 大 輔

益 田 香 孝

松 平 定 教

三 井 養 之 助

小 林 年 保

藤 塚 式 部

旅館神奈川
村

森 下 景 端

池 田 章 政

深 原 源 太 郎

金 須 松 三 郎

二ノ宮

木 村 信 郷

金 原 安 修

渡邊 清

伊達 宗基

山東

笠井

小松 崎

中島 信

大文

大沼 十右衛門

遠藤 温

田村 比海通

伊賀 陽一助

佐久 間健壽

伏見

黒川 剛

阿部 信州第十九 八十吉

岡田 少輔

森村 市太郎

佐野 理八

河瀬 秀治

高 三郎

木村 信國

伊達 寧永

星野 有信

阿部 得太郎

國分 豁

樋口 忠一

大庭 機

金子 弥平

津田 仙

古石 旅館 旅根 忠兵衛

平 小網町 旅館 藤太郎

金成善工門二字脱九

井上五八

井上常次郎

村田有注

上林熊二郎

大松澤新

川上左七郎

和久井角田

杉山岩三郎

芳賀雄助

伊達寧雄

関新吾

河原可信

原田一郎

小原重哉

岩瀬公圃

ウルヘツキ

千原幸右工門

千波

行徳

市河三兼

榎本武揚

高野長英

福田宗禎

古筆了悦

ホトエ

勝小鹿

星松三郎

茂木

樋渡忠一

龜卦川

川村清雄 馬家

高木貞作

末松謙澄

久保田貫一

濱尾新

草賀廣男

山中登

村上長毅

中川横太郎

稻川長典

池田博愛

山内芳秋

太田昇平

前田正名

新島襄

山田司法卿

宮島精一郎

新井白石

()

044-966-6510

張氏

張氏

張氏

() ()

1-106 1-232

山一証券經濟研究所

明治十九年一月一日

小島田鏡之助日記 (寫)

明治十九年一月一日

1-166

第二十四

子成
明治二十一年

鐵雲山房日誌

丙戌
明治十九年一月一日

丁亥
明治二十年

戊子
明治二十一年

鐵雲山房日誌

第二十四

表紙裏書込

二十一年九月二十七日

叙正五位 特旨

六月一日前右代金成金八百兩連藤致止江為替

又以下本日指五兩許吾家屋土地金久買取

又以下本日指五兩許吾家屋土地金久買取

明治二十一年三月廿五日傳四十五百圓上十七日回金

本丹銀行より被贈客歳中別西事務勸励状十

り

摘要

五月八日仙臺片平町松ノ井屋敷遠藤敬止ヨリ

八百圓ヲ以買入レノ相談整止内金千圓相渡

ス

六月一日前右代金残金八百円遠藤敬止江為替

ヲ以テ本日指立ル前書家屋土地全ク買取り

タリ

明治二十年ヨリ年俸四千五百圓トナル旧冬金

千円銀行ヨリ被贈客歳中别而事務勉勵故十

リ

明治二十年八月 副總裁九月滿期ニ付更ニ重

任被仰付旨内閣ヨリ辞令出ル直ニ御更指出

二十一年一月廿七日 楠公書幅大石内蔵外添書

付書幅北岡氏ヨリ被贈

二十一年二月廿二日 御用ニ付禮服着用内閣江

罷出候所

日本銀行總裁被仰付

又大蔵大臣ヨリ年俸五千圓被下候事ニ銀行

江命令アリ

(欄外書込 上部ニ「日本銀行總裁」ト記ス)

二十一年九月二十七日

叙正五位

日本銀行總裁從五位富田鐵之助

特旨ヲ以テ位階被進

宮内省

九月十菊一文宇則宗乃古么代金貳百五十圓也

外 = 研料白鞘新調代五圓渡

步也之卜久時期未答多缺八廿五火

一昨年一月八熱海一昨午八大阪二在

小事兒團變新正不祝久

一月二日目智田友村田火來山兩氏了訪也浪吞

神報友了訪不在直一郊外散步目思一小飲神

類友來心相訪上夕刺停心

一月三日火藏大臣火井初晴生坐一新字了祝久

其他八田勤日天

明治十九年一月一日

年賀来客送迎終日不能出門今朝早ク郊外散步セシトス時期来客多ク終(タヤカ)ハサオズ

一 昨年一月ハ熱海ニ昨年ハ大阪ニ在リ本年

ハ妻兒團樂新正ヲ祝ス

一月二日目賀田氏村田氏来ル西氏ヲ訪ヒ渋谷

神鞭氏ヲ訪不在直ニ郊外散歩目黒ニ小飲神

鞭氏来ル相訪ヒ夕刺歸ル

一月三日大藏大臣大井邸勝先生ニ新年ヲ祝ス

其他ハ回勤セズ

一月四日 銀行ニ出勤ス

一月五日

一月六日 お縫 旧冬中ヨリ微恙ノ所本日ヨリ平

卧ス病性ハ十二月ヨリ月徑全ク終ラズ本日

ヨリ甚シ難波・橋本両医診察ヲ乞フ十一月

中メグリ止リタルコトアリテ爰ニ及ヒタレ

ハ多分流産ナラント云フ(出勤)

一月七日

一月十四日 橋本来リお縫ヲ診察ス敢テ異状ナ

ス然レトモ子宮少々タレハ平當セン

コト要スト（出勤）

一月十五日 自お縫 昨日已來出血止リタリ

一月十六日 お縫出血 弥々留リタルカ如シ（出

勤）

一月十七日 出勤 湯谷池日江半禮又雨園の生稻

十月十七日 出勤

一月十七日 日曜 杉田江年始勝先生ヲ訪フ土

子来ル 森家内事困難ヲ説ク ○南保葬送ニ付

青山ニ會葬ス（供物料壹圓贈ル）

一月十八日 出勤 昨日ヨリ大蔵省内務省等之

改正 = 于 奏任官判任官数百名ノ非職アリ

一月十九日出勤午後銀行集會所 = 于 加藤濟中

村元雄洋行之送別會アリ午後五時ヨリ被招

大藏大臣 = 于 臨席也夜十時過歸ル

一月廿日出勤歸途池田江半禮又西國の生稻 =

于 川崎八右門 = 被招他の用事アリ入口迄見

(八郎工門也)

舞ノ上断リ吉原ヲ訪フ同人養生論ヲ諭シス夜

八時過歸ル

(欄外書込 上ニ「丙戌」ト記ス)

一月廿一日出勤〇新嶋襄西京ヨリ来ル共立英

学校ヲ仙臺ニ開^{下脱也}シ^シノ爲ス内話ニ来リタルナリ

一月廿二日出勤夜松倉恂鈴木大亮ヲ招ク鈴木

不来新島發起ノ学校創立ノ事ヲ計ル議粗成

ル

一月廿三日出勤○夜新島同道ニテ森文部大臣

ヲ訪フ共ニ学校創立ノ意見ヲ聞ク贊成ヲ得

帰ル

一月廿四日曜勝先生ヲ謁ス

一月廿五日出勤新島ト一通リ之内話相濟^ハ

同氏本日安中江赴ク

一月廿六日出勤松倉明日帰縣ノ由見送りニ罷

越茶二斤茶子餞別ニ遣ル松隣兄ニ流（疏金魚ノ）近真一

尾同氏江托シ送ル○新嶋米國送りシ郵書本

日指出シ来月一日東京号出帆ト云フ

一月廿七日出勤○松倉仙臺江出立ス伊達宗亮

来ル来客終日在宿ス

一月廿八日出勤○原太郎明日歐州江出立ニ付

大越成徳江返書併テ小兒ノ手遊ヲ贈ル○夕

刻富田恒一來ル鈴木大亮ニ紹介ヲ望ム故十

り

二月一日 出勤 (欄外書込 上ニ「丙戌」ト記ス)

一月廿九日 出勤 ○新嶋安中ヨリ帰朝一泊ス ○

原六郎明日 歐州江 出立ト云フ

一月三十日 孝明天皇祭 ○朝ヨリ降雪本月ニ入

二月一雨十三 今日ノ大雪大ニ時候ニ適ス ○朝

ヨリ来客終日 在宿ス

一月三十一日 日曜大雪

二月四日 出勤

二月五日 出勤

二月六日 出勤

二月一日出勤

二月二日出勤宮城縣會議員首藤隨三遠藤庸治

勝又呈佐藤文輔来ル同人共石巻より仙臺江

鐵道新設之義申込ハ為メ来リタル旨ナリ

二月三日出勤伊達基寧ヨリ来書ニ同人弟寧祐

ヲ塾内ニ止宿廿七鳥井坂ノ学校江通学依頼

申来ル

二月四日出勤紅葉館ニ小集幼稚園ノ事也

二月五日出勤高木貞作不日渡米ノ由ニ竹送別

ニ招ク橘成彦神鞭松浦五甫藤井三郎来ル夜

十二時何レも退散

二月六日出勤又造士義會例會松隣兄松倉伊達

基寧新嶋襄江返書認々

二月七日日曜村田一郎大竹葦来ル谷謹一郎ヲ

訪フ不逢書状ヲ以来ル十三日中村加藤送別

會ニ大藏大臣臨席ノ内打合依頼ス河上訪中

(内瑠志レ)

病キヲ訪フ〇勝先生ニ謁ス病院創設ノ内話

アリテ橋本ヲ訪ヒ傳言ス

二月八日出勤藤井三郎高木貞作明朝米國江出

立藤井ヲステシヨシニ送ル米國々ヤ一々

江書状出ス○伊家ニテ公債（金札引換）二

二月九日佐藤素拙大病ノ様子ナリ

二月九日佐藤病体重又今日橋本診察ス朝夕西

度見舞フ夜讓堂公御出ナリ鈴木大亮ヲ招キ

而後三十間堀ノ営業并ニ鎮定整理ヲ議ス

二月十日出勤西度三十間堀ヲ訪フ池田謙齋来

リ診察ス

二月十一日紀元節休日○朝来客アリ午後松平

正直旅寓銀座林ヤヲ訪フ不在○佐藤病床ヲ

訪輕快○伊達寧祐来リ泊ス○樋口忠一帰京

申遣しス

二月十二日出勤○帰途佐藤病床ヲ訪フ弥々危

篤と容体ナリ橋本来リ診察ス

二月十三日出勤無記事

二月十四日日曜午前東客午後松平正直ヲ林也

二訪フ学校周設ヲ談ス○勝先生ニ謁ス

二月十五日出勤○午後三十間堀ヲ訪フ佐藤素

拙危篤夜ニ入り病死ノ報知来ル

二月十六日朝三十間堀ヲ見舞素拙遺族手當并

二同所営業上ノ事ヲ談ス○出勤

二月十七日出勤帰途(尚暇)三十堀ニ立ヨリ諸事相談

又素拙病死ニ付造士義會ノ臨時會ヲ由ク

二月十八日出勤朝伊達從二位殿ニ立ヨリ七素

拙遺族扶助宮城也繼續人名等申述ル〇素拙
葬送ニ付染井西福寺ニ會葬ス

二月十九日出勤無記事

二月廿日日曜造士義會總會ニ付日本橋教寄屋

町玉川樓ニ會ス大槻文考會長トナル帰途鈴

本横尾佐和同道三十間堀ニ會ス

二月廿一日出勤
午後宴同若翁
二月廿一日
立
森
大

二月廿二日出勤
招十仙臺學校
立
事
談

二月廿三日出勤
合又

二月廿四日出勤

二月廿五日出勤
朝文部大臣
立
夕
廿八日星

岡 = 小會
約
又
三十間堀江會
又
造士義會

之日也

二月廿六日出勤
中村元雄
加藤齋
歐州江
出立

○大井邸 = 伺候
又

二月廿七日出勤
人力社懇親會
出席
又

二月廿八日日曜午後星岡茶寮ニ於テ森文部大

臣松平正直ヲ招キ仙臺學校設立ノ事ヲ談ス

本鈴木大亮モ會合ス

出席

三月二日出勤鈴木大亮明後日火通道ニ出立ス

送別ノ為メ佛途立上リ夜櫻堂公ニ送別ス

三月三日出勤

三月四日出勤

三月五日出勤

三月六日出勤

三月一日出勤午後上野精養軒=人力社懇親會

P 出勤

三月二日出勤東京俱樂部井上勝之助送別會 P

9 出席

三月二日出勤鈴不大亮明後日北海道=出立不

送別 / 厚 / 帰途立止 / 夜讓堂公 江罷出儿

三月三日出勤

三月四日出勤

三月五日出勤

三月六日出勤造士義會例會

三月七日日曜大井江罷出ル○新島ヨリ来書○

大立目謙吾来ル

三月八日出勤

三月九日出勤夜杵田一郎来ル同人進退上奈良

原ヨリ内話之模様ニ因ルニ松方大臣江あし

く申立タルモ有之由ナリ塵世ノ常態ナリ

三月十日出勤

三月十一日全

三月十二日出勤

三月十三日出勤松倉江書状出入

三月十四日 日曜 吉原 森小崎弘道ヲ訪勝先生江
出ル

三月十五日 出勤 義男 第二年 誕辰 十リ 家内内祝

又

三月十六日 出勤

三月十七日 出勤 廣澤安任 来ル

三月十八日 出勤 川上左七郎 来リ 晩食ス

三月十九日 出勤 午後 紅葉館ニ飲ス 川上左七郎

ヨリ被招

三月廿日 出勤

三月廿一日日曜又春季皇靈祭第十回仙臺親睦

會ヲ近源亭ニ開ク来會スルモノ四十五名

三月廿三日出勤

三月廿四日出勤午後地岡ノ別荘ヲ借り川上左

七郎ヲ招ク理事ニ進ミタル祝杯ナリ松方大

臣郷吉井来ル夜八時會散ス

三月廿七日(欄外書込 上ニ「十九年」ト記ス)

三月廿五日出勤〇郷義弘ノ一刀金百八十円ニ

ヲ買求ム尤銀行重役用トメ三野村飯田方ニ

而仕拂フ松方之好ム所ナレハナリ〇仙臺表

木才ト氏之動作松倉ヨリ申来ル直ニ新嶋江

郵送ス又夜ニ入リ新嶋ヨリ来書ス

三月廿六日出勤〇三十間堀定日ニ竹出勤

富山縣高岡正村五平一銅器ヲ被贈然ル(ニ股カ)右正

村ナル人ヲ忘ル當時ノ止宿本石町三丁目安

川嘉兵衛方ナリト云フ

三月廿七日出勤無記事

三月廿八日朝木村香兩ト同道海舟先生ニ謁ス

〇午後大井ニ到リ来四月ヨリ右所會計お縁

殿ニ托スル事ヲ極ム〇郷義弘ノ古刀ヲ松方

大藏大臣ニ贈ル

三月廿日出勤大町信佐久間健壽宮嶋宗久来ル

三月三十一日出勤午後松方伯ヨリ被招夜宴ニ

陪又來客ハ税所篤吉井高橋新吉等十リ夜十

時過帰ル

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '同志社' and '仙臺'.

四月一日出勤西村虎四郎ノ招キヨリ濱町常盤

屋ニ飲ス川上左七郎別杯ナリ

(欄外書上ニ「十九年」ト記ス)

四月二日出勤

四月三日大祭妻兒ヲ携墨堤ニ遊ブ

四月四日川上出勤伊達直知君同行ヲ依托西京

ノ同志社ニ入塾今朝新橋ニ送ル○新嶋ニ書

状出ス仙臺新創学校ノ在ハ小義ニ暇ミ遅レ

ハ得策ニアラス断然確定ノ義申遣ス○石母

田宗四郎昨年中立替金七圓太田資安ヨリ返

ル ○庭櫻盛り上野モ明日頃満開ナラン 墨堤

(ロンドン)

ハ四五日中ナラントス ○松本虎之助龍動ニ

於て病死ノ事ニ傳聞ス同人ハ山階宮御附ニ

テ昨年出立ス篤實ニメ善ク堪忍ノ氣風アリ

素志貫徹セズ中途ニメ倒ル人事ノ不幸之レ

ヨリ大ナルハナス

(欄外書込) 上ニ「庭櫻今日盛リナリ」ト記ス

四月五日出勤

四月六日出勤午後折田彦市服部一三手島精一

ト築地隅屋ニ會ス 畠山獎学義會之相談ナリ

四月七日出勤

四月八日出勤○松方伯ニ謁ス銀行紙幣入替之

事○支店増設ノ事ヲ談合ス○朝トクトルホ

イト子一来リ内事困難ノ一糸ヲ内談アリ意

見大ニ同意ナレハ隠然賛成援助ノ手段ヲ爲

ス

(欄外書込 上ニ「十九年」ト記ス)

四月九日出勤

四月十日出勤昨夜ヨリホイト子一内事困難一

糸ニテ屢々奔走勝家并ニホイト子一氏宅ヲ

訪フ

四月十一日日曜國分詣来ル石川小膳学事修行

ノ為ノ出京又目賀田来訪○本日觀花ノ為ノ

佐和ヨリ被招大井御邸一統御出也夜ニ入り

歸ル

四月十二日出勤○松倉ヨリ書状到ル新島襄江

過ル三日認メ之返事ヲ促ス且仙臺方好都合

十リ松倉書面封入遣シ

四月十三日芝幼稚園視察トメ服部一三折田考

市来ル案内午飯ヲ出ス為メニ本日不勤○亦

イト子一夫婦来ル。○目賀由来榎梅太郎北海

道ニ送ル内談ス湯地定基江書状副フ西京新

嶋ヨリ来書直知君安着之義申来ル。○石川小

膳来安田善次郎大條季治来ル。○紅葉館ニ招

四月十七日出勤上野共進會決草公園等見物八

百松樓ニ宴ス銀行集會所ノ年會ナリ

四月十八日日曜勝先生ニ謁ス大井邸ヲ訪フ

四月十九日出勤

四月廿日大井邸ニ徳川春宮御出ニ付被招朝八

時ヨリ夕七時過帰ル

四月廿一日出勤川村傳衛別荘 = 被招夜會入

四月廿二日出勤夕六時一川研三ヨリ被招鹿鳴

館 = 飲入

四月廿三日出勤末松謙澄帰京 = 竹紅葉館 = 招

飲入来會者末松牧野 ^(重色) 顯河田熙三田信久保

田貫一西川鐵二郎主客八名十リ

伊達寧祐今日出立入明日発ノ汽船 *city of Penang*

= 乗組桑港 = 発入是士ヲ以横濱まで見送ル

當二月ヨリ世話 = テヨウヤク結了入尚出立

ノ事并 = 立替金ノ事ハ登米村星野有信 = 郵

送
又

五月一日出勤造士義會例會

五月二日日曜大井江罷出ル味増改良之議ヲ出

又〇松隣兄ヨリ来書又京師新嶋ヨリ来書

五月三日出勤松倉ヨリ来書停車場区内ニ入ラ

ナルトテ区民大サソキ付テ伊達家江一万五

千圓出金ノ申出ル

五月四日出勤富士見軒ニ晩食ス来會折田服部

小嶋十リ〇夜三十間堀ニ會ス松倉ヨリノ来

書ヲ議ス停車場区ノ内外ニ関ハラズ仙臺ノ

衰フル理由ナシ又寄附金不出事ニ決ス

五月五日出勤松倉江内状認ム同人出京促ス為

十リ

五月六日出勤

五月七日出勤登米屋野有信ヨリ立替金不拾貳

月貳拾貳錢到來ス

二郷半村江五百圓ツ、西度千圓利朱約速ニ

(利分カ) (東カ)

ヲ貸金朝比奈今日拵考返入ス

五月八日出勤遠藤敬止江右千圓内代金トメ相

渡ス右ハ片平町松ノ井屋敷建家并ニ木石共

代金千八百圓ヲ以買入約速ニ竹内金代渡ス

東カ

五月九日日曜

五月十日出勤〇新嶋(西京)来書米人宣教師

出京云々ニ竹同道出京セヨト電信指立ル

五月十一日出勤新嶋来ル十四日出立土京卜電

報アリ日出勤森文部大臣宅一山集會アリ被

五月十二日出勤

五月十三日出勤大井江罷出ル味噌方松浦五郎

助江引渡之下相談ナリ文房横尾東作新嶋来

五月十四日出勤松倉出京ノ断リ申来ル重テ出

京促ス〇川村清雄ヨリ古器如意拵参ス余ニ

被贈十日出勤新嶋裏仙臺一出立ス

五月十六日曜相馬ニ被招晩食ス男子誕生祝

五月十七日出勤原鈴木来ル翌日ニ随行西細里

五月十七日出勤新嶋襄君西京ヨリ来ル

五月十八日出勤森文部大臣宅ニ小集會アリ被

招

五月十九日出勤五時ヨリ三十間堀ニ會ス来會

者鈴木大亮佐和正大槻文彦横尾東作新嶋襄

五月二十日仙臺ニ英学校創設ノ内議ヲ存ス何七火

賛成

五月二十日出勤新嶋襄仙臺ニ出立ス

五月廿一日出勤

五月廿二日出勤夜鈴木来ル(果)田ニ隨行亞細亞

大陸旅行ノ内命アルトノ事

五月廿三日日曜学校設立ノ依頼書ヲ松平正直

= 郵送ス ○ 同松倉愚川 = 郵送ス

本日ハ河田葎ヨリ鮫州川崎 = 被招両天故不

参

五月廿四日出勤

五月廿五日出勤

五月廿六日出勤

五月廿七日出勤

五月廿八日出勤

五月廿九日出勤
富山岡野某ヨリ被招
川長標二

會入

五月三十日
日曜森大臣乃父八十誕辰
十リ會宴

ア
リ

五月三十一日出勤

六月一日出金金八百円為替ヲ以仙臺遠藤敬止

ニ送ル如ハ屋敷買入残金渡ス濟也

六月五日新嶋仙臺ヨリ來ル西京ノ老父大病ノ

報告ヨリ急ニ仙臺出立ノ由且興校方大ニ都

合よろしき由也

六月六日新嶋西京ニ出立

六月七日学校創設方好都合之由十文字ヨリ申

來ル

六月八日

六月九日学校内規草按ヲ松倉十文字江申遣

六月十日

六月十一日出勤朝銀行局ニ出銀行員賞与金割

合ノ事ヲ内話ス

新嶋江書状出し内規草按在中米人デフオル

又ト今日大阪ニ帰ル岩瀨兄ニ書状出ス松倉

の諾否南谷アリ

六月十二日出勤後二時ヨリ大井江罷出ル鈴木

大亮離縣ナリ

六月十三日日幼稚園ニ服部一三来リ歐米幼

稚園ノ壮景ヲ説ク

午後三十間堀ニ造士義會臨時總會金利引下

七ヶヲ議ス

近源亭ニ鈴木大亮大槻直信別送會アリ出席

(送別也)

七又

六月十四日出勤西京新嶋江書状出ス

六月十五日出勤三十間堀ニ會ス〇十文字岩剌

ニ書状送ル共ニ返事ナリ

六月十六日出勤海軍公債募集着手

六月十七日出勤讓堂君ニ拜謁大井邸ノ義ニ付

別人推舉ノ義申述御同意

七月廿三日 鈴木大亮 洋行 出立

七月廿八日 學校 設方 = 竹小笠原 幹遠 藤敬止 小

倉長太郎 鈴木太郎 作 芳賀 眞咲 江 謝 辞 申 遣 又

七月二十九日 前同 断 = 竹松 平正直 江 書 狀 出 又

子昂之懸物 金百圓 = 于 北岡 江 預 け 置 け 右 百

金返付 / 七つハ 同時 来り 右軸物 取戻之 答也

右金ハ 岩淵兄 建築方 = 用立也

九月十一日 宮城 英学校 開業 生徒 百三十

七月三日 出勤 造士 義會 例會、松倉 江 返書 出 又

(トヲコーマカ)

本年虎刺良流行一日三百餘人ノ患者ニ達ス

麻布区内一日六名ニ昇リタルヲ最トス衛生

上ニハ最良ノ区内トス

尔来日誌ヲ惰リタリ

九月十一日ヨリ宮城英学校卒業ス生徒百三十

名入校スト云フ

9

45

九月十七日日曜午後松方伯ニ謁ス余此日特ニ
 内願ノ一条アリ他事ニ涉ラズ拜謁ヲ乞ヒ夕
 ルナリ内願ノ要領ハ昨春吉原歐行ニ付不在
 中代理ヲ勤ムルニト不能ハ免職ヲ乞タレト
 キ不在中勉強セヨトノ内諭ヲ奉シ来リ吉原
 帰朝後直ニ病キ引籠リ尚九月頃ハ本快ノ見
 込ナレハ其上直ニ免職可相願心得之所吉原
 病キ再發昨今ニ至リ全快ノ期モ難豫定タト
 九レ全快スルモ事務ニ當リ容易ノ事ニアラズ
 ト推荐ス然ル上ハ此上引續奉職スルモ不才

ノ堪ル所ニアラス因テ免職ノ願フコトニ決
心セリト申入ル

九月十八日アレキサントル女ヲ大井ニ紹介夫

人ノ英語習古ヲ初メタリ

昨日整理公債壹億七千五百萬円發行ノ布令

アリ世誦轟々タリ大蔵大臣ノ不学可羨ノ所

置ナリ可笑又可憂ノイタリナリ

九月十九日伊藤總理大臣ニ面謁ス渡邊洪基外

山正一英公使館書記官トレンチキト余ナリ

頃日榮企ノ女子高等学校設置ニ付同伯會長

ニ當ランコトヲ申入ル同長引受タリ

〇北岡長今朝松方伯ニ面接今度榮令ノ整理

公債ノ不出来ヲ忠告スト云フ

十月廿一日出勤北岡長森村氏ト内談ノ一事ア

リト内話ス

十月廿五日出勤北岡長松方大臣ニ日本銀行ニ

関ル一条ヲ嚴責スト云フ事余カ進退ニ係ル

一事也明日大臣ヨリ三野村被招タリ〇女子

教育會ノ事ニ付外山箕作矢田部穂積ト會ス
○仙臺市京ヨリ書状來ル

十月廿六日出勤原六郎ニ被招賣茶亭ニ晚食ス

三野村ト三十間堀ニ會ス松方明朝來ルト云

ノ

十月廿七日出勤早朝地岡ヲはし場ニ訪ヒ明年

八月迄一期丈繼續スヘキト云ニ付今日大臣

ノ來訪ヲ留メ吳レヨト批ス

(見服之)

富士軒ニおぬて第ニ會女子教育會ヲ催ス

松方ヨリ西度ノ書状ニテ被招夜ニ入り相尋

明
又吉原も病中ニ付是非引續キ勤續候も不廻

談
アリ
諾
ス

[Faint, mostly illegible handwritten text in the background grid]

明治二十年一月一日朗晴

朝雜糞并ニ祝杯後九時半ノ汽車ニテ相駁地
方漫遊ニ登程ス同行村田一郎也又神奈川ヨ
リ高木三郎同遊ノ約アリ停車場ニ逢テ神十
川ヨリニ頭馬車ヲ雇ヒ湯元ニ登ス同所ヨリ
山東印東等三名加里同車六名湯元ニ日暮着
スニ頭馬車七圓也

(欄外書込上ニ「〇」ヲ記ス)

一月二日朝湯元ヲ登シ御殿場ニ向テ里程八里
山駕籠貳挺人足一人行李ヲ庫員木賀ヨリ於

富士^女越^上御殿場村富士也^迎二夕六時着人同

所^二駿東郡長竹内壽貞出向^上一^同宿^不御殿

場ハ東海鐵道中ノ停車場トナル豫是故人氣

大ニヨシ海面上一千五百尺ノ所ナリ

(欄外書) 上ニ二十年ト記ス

一月三日同所出立佐野村ニ瀑布アリテ風景佳

ナル所ナリ小林又人カ車ニテ三島驛ニ二時

頃着^不御殿場村ヨリ七里竹内ニハ佐野驛ニ

お^りて別^ル熱海ニ八時頃着^不鈴木良三方ニ

宿^不此所知人^活客多^シ故ニ外出セ^不郷純造

ヲ尾張也ニ訪フノミ松尾同宿ス暫時對話ス

○永富謙ハ奥田の旧臣某ニ名ト来リ事務ノ

相談ニ来リタルト云フ漫遊中俗事ヲ聞クヲ

厭フカ為メ談事務ニ及ハスシテ別ル

一月四日熱海滞在

一月五日熱海七時頃出立日金山十國峠ヲ越ル

鞍懸^(掛カ)山ヲ過キ三時過箱根ノ石内ニテ晝食ス

知人等来リ會ス日脚斜ントスレハ切々告別

宮下ニ日暮着ス富士屋ニ宿ス入浴洋食頗ル

旅中ノ困ヲ去ル

一月六日朝初雪満山自ス八時頃同所出立湯元

= 一頭挽キ馬車 = 一神奈川 = 七時前着高

木 = 別レ八時一汽車 = 一東京 = 帰ル

旅中一諸入費都合一人割十五圓三十美ツ

、也途中駕籠人力車人足荷産入茶代等都

一 一ノ合計也尤余ハ別 = 七圓程ヲ費ス知人

一 江ノ年頭又熱海温泉五樽ヲ求メタルカ厚

一 月ノ十リ

湯代五樽東京迄一運賃貳圓四十美也和

船ノ運賃(送)十レ八五十美程安料十リト云